

—北海道開発局—

サンルダム建設事業の完了について

1. はじめに

サンルダムは、北海道北部の一級河川天塩川の支川であるサンル川に建設した、国直轄管理では国内最北端に位置する多目的ダムである。

天塩川は約256km、全国第4位の幹川流路延長であり、流域内3市8町1村においては水田・畑作を主体とする農業が盛んで、下流域の天塩平野には優良な酪農地帯が広がっている。

天塩川流域は、過去から幾多の洪水に見舞われており、また、生活様式の向上により、都市用水を中心に水需要は増大の傾向にあった。

このような背景から、昭和63年にサンルダムの実施計画調査に着手、平成5年に建設事業に着手した。

2. サンルダムの概要

サンルダムは、堤高約46m、堤頂長約350m、堤体積約49.5万 m^3 、総貯水容量約5,720万 m^3 で、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給及び発電を目的としている。



サンルダムと下川町市街

堤体型式には、台形ダムとCSG工法の特徴を併せ持つ「台形CSGダム」を採用した。「CSG」とはCemented Sand and Gravelの略で「セメントで固めた砂礫」を意味する。台形CSGダムは、設計、材料、施工の三つの合理化を同時に達成する比較的新しい型式のダムであり、国内では4例目、国直轄管理では2例目の採用事例となる。

また、ダム下流に階段式魚道、ダム湖沿いに約7km

に及ぶバイパス水路を設置し、サンル川流域に生息するサクラマスをはじめとした魚類の生息環境に配慮している。

平成25年にダム本体工事に着手、平成29年にダム本体コンクリート打設を完了、平成30年6月に試験湛水を開始、平成31年2月に無事完了した。

3. 竣工式の開催

平成31年3月17日、地元下川町において、北海道開発局旭川開発建設部主催の竣工式を開催し、約250名が出席した。

旭川開発建設部長の式辞、国土交通大臣政務官の挨拶、国会議員、北海道知事、名寄市長、地元下川町長からの祝辞の後、来賓や地権者などの方々により、くす玉開披が行われた。結びに、長年にわたり事業の推進にご尽力いただいた方々を代表し「サンルダム建設と町の活性化を図る会」の会長が、これまでの苦労話や今後のダムの活用について思いを語り、万歳三唱で締めくくられた。

4. おわりに

ダム湖名の公募では、242件170案の応募があり「しもかわ珊瑚湖」に決定した。

サンルダムの位置する下川町は、森林資源を利用した木質バイオマスでの熱供給や循環型森林経営の確立など持続可能な産業を構築し、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいる。

また、町おこしにも力を入れており、発祥の地と言われるアイスクャンドルのイベント「しもかわアイスクャンドルミュージアム」が今年2月で46回目、「しもかわうどん祭り」が今年8月で17回目の歴史を持つなど、多くの観光客が訪れる。

今後も、天塩川流域の安全・安心を確保していくため、ダムの適切な運用・管理に努めるとともに、ダムを活用したまちづくりに、地域と連携して取り組んでいきたい。

(国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部
名寄河川事務所 サンルダム管理支所長 水嶋 稔)